



石川啄木の「働けど働けど我が暮らし楽にならざり、ぢっと手を見る」ではないが、昔からポオ〜っとしている時になんとなく手相を眺める癖がある。全然詳しくはないがやはり生命線や金運線は気になるところだ。基本的に聖職者は平均寿命が長いというのが先月先輩のお坊さんKさんが五十年代前半の若さでこの世を去った。去年は六十代の先輩がお二人逝った。「靈魂は電気を操ることができると何かの本で読んだことがある。Kさんのお葬式の時、二度も停電になった。その時に奥様から「お前も一緒に来いとか言われているんですか?」と半分真顔で聞かれたので、よくわからなかったが、そうではない気がして「これからもお寺を頼むぞって言うてらっしゃるんじゃないですか?」と答えた。

人生で起こる全ての出来事が目に見えない世界からのメッセージだと捉えたならどうだろう? 事故や事件、別れや出会い、挫折や失

仏さまのウインク

敗や成功という大きなことだけではなく、日々の小さな出来事全てが自分に何かを伝えようとしているのだったら、何ひとつとしていい加減に見過ぎすことなんて出来ない。俺が顔を五十針縫う事故にあったのは祖母が亡くなったのと同じ二十六歳の時、初めて荒行に行つたのは曾祖父が亡くなった三十五歳の時、出家したのはその曾祖父のお兄さんが亡くなった二十八歳の時…。そう見始めると全てが関連付けられて来る。日々の生活の中でのちょっとした変化をそんな目線で見てみると何かに気づくのかも知れない。良いことも悪いことも含めて…

先日、いつものように手相を見ていると最近真面目にしているからか、「仏眼」と呼ばれる神仏や先祖に守られる相が右手にだけ小さいが出てきていた。「仏さまのウインクだな…」とか思っていたら、今まではなかった新しい線を発見。なんとなく良い線のような気がしてワクワクしながらネットで調べてみると「疲労線↓この線が現れたら健康面に要注意」とあった…。なんだよ!



住職 松竹正純さん = 文
(まつたけしょうじゆん)

- 昭和44年 大阪府堺市生まれ
- 大黒山徳性寺住職(雲仙市)
- 23歳で、北米大陸をオートバイで縦断。
- 様々な職業を経て、28歳で出家得度。